

トンネル建設工事業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者 規模
2017	1	9~10	上り線第4非常駐車帯において、作業員2名でセントルの張出足場でバリ受け（棲板を押える）鋼材H鋼H125、L=2500、60kgをセントルに固定する作業をしていたところ、鋼材を取り付ける向きを合わせる為に、鋼材の端部を手摺に置いて反転させた。その際に、鋼材が手摺の斜めの部分を滑り落ち、被災者がそれを止めようとしてバランスを崩し、手摺（h=65cm）のすき間（b=700mm）から約4m下に墜落した。	60	411	1	10 ~ 29
2017	2	15~16	作業ヤードの立木（φ28cm、L=12.0m）の伐採作業をしていたところ、倒木した木の枝葉がクッションとなり、自倒木が下方側に跳ねた。その時に下方側にいた作業員の左肩甲骨付近に当たり被災した。	64	712	6	10 ~ 29
2017	2	14~15	立杭下部より地上部へH鋼をクレーンにて吊り上げ、トラック荷台に仮置きした際、H鋼に溶接止めしていた部材（溝型鋼）が外れ立杭下部に落下し、立杭下部で作業を再開していた被災者に当たり負傷した。	45	521	4	1 ~ 9
2017	2	22~23	工事において、被災者はトンネルのズリ出し作業を行うため重ダンプを運転していた。ズリ出しを終えて重ダンプを坑内所定の場所（切羽より250cm程手前）に停め、重ダンプを降りる際にステップを踏み外し地面にそのまま左足を着いた。着地の際に地面にあった小石を踏んでしまったためバランスを崩し尻もちをついた。（現認者がいないため、本人の申し出により記載。）	64	221	19	10 ~ 29

2017	3	9~10	一次吹付中コンクリート圧送管の継手が外れており、作業員Aが継手を締め直すため圧送ポンプを止めるよう先端で作業しているノズルマンに合図しようとし、エアーをふかして終了の動作に入った。その際に、継手が外れていたためエアーがポンプ側へ流れ、その衝撃でL型圧送管の根元の継手も外れ被災者にL型圧送管が飛んできて、右足脛に当たった。	54	149	4	30 ~ 49
2017	3	13~14	被災者は、吹付プラントで吹付用コンクリート混練作業を行っていた。トラックミキサー車がプラントでコンクリートを積み込み、切羽部で吹付機のホッパーにコンクリートを出したところ、コンクリートと一緒にヘルメットおよび長靴が排出された。運転手がミキサー車内部を確認したところ、トラックミキサー車内部にチョッキ、ヤッケの切れ端を確認したので作業を中断し、第一発見者が吹付プラントのミキサー内に被災者を発見した。	41	162	7	10 ~ 29
2017	5	9~10	トンネル工事現場坑内1,050m付近にて、トンネル分岐部覆工作業の型枠設置用コンパネ切断作業時、使用していた丸鋸の刃先が被災者の左手親指に接触して切創した。	62	131	8	1 ~ 9
2017	5	16~17	翌日の作業の打合せを行う為、貯留槽に上っていたが、内部の状況を見るため下に降りようとした際、開口部から床面に足から落下した。	73	418	1	1 ~ 9
2017	5	12~13	被災者はトンネル掘削（坑口から513m）にて鋼製支保工（H100×100）を建込中、エレクター吹付機のマンゲージ上にて作業を行っていた。切羽鏡面の天端右側付近から岩塊（1.5m×2.0m×0.5m程度）が突然抜け落ち、被災者が乗っていたマンゲージに接触し、その反動でマンゲージ上の操作レバー付近の鋼製枠に胸部及び腹部を強打した。発生時切羽鏡面及び掘削面は1次吹付コンクリート（t=5cm）は施工済みであった。被災者はマンゲージ上で安全帯を使用していた。当時協力業者の切羽監視員1名、元請職員1名で切羽面の監視を行っていた。	57	711	3	10 ~ 29

2017	7	13~14	当社宿舎の空き部屋を従業員3人で清掃中、後ろ向きのまま後ずさりをした時、備え付のベッドの角に臀部（肛門部）を打ち尿道損傷を負った。	36	379	3	10 ~ 29
2017	9	22~23	夜勤でのトンネル堀削において、削孔を終えて火薬装薬中突然肌落ちが発生し、被災者の腰付近に岩塊を含む堀削ズリが当たり受傷した。	47	711	5	10 ~ 29
2017	10	13~14	被災者は、基礎コンクリートの打設作業に従事していた。詰所にて休憩後、再度、コンクリートの打設場所に戻る際、設置されている昇降階段を使用せずに、型枠支保工（H=900mm）をまたいで外周掘削面から打設スラブに上がろうとした。型枠2段目の単管パイプに右足をかけ、左手で建地、右手で型枠を掴み、上がろうとした際、単管パイプにかけた右足を滑らせバランスを崩し、右手をスラブの鉄筋に突き、負傷したもの。	22	521	3	50 ~ 99
2017	10	11~12	2号トンネル新設工事現場において、トンネル入り口に設置した足場の解体作業を行っていた。クレーンでつってきた足場のワイヤー取り外し作業中に、最後のワイヤーを外した際に足場が傾いたために体勢を崩し、1.7m位の高さから飛び降りた（転倒）際に左手を地面に着き負傷した。また、その際にアルミ階段が滑り落ちてきて、右ひざに当たって負傷した。	20	411	1	10 ~ 29
2017	11	8~9	ブロック積みの施工において、斜面天端に使用するブロック片をさらに小さく加工するためにディスクグラインダーで切断しようとした際、左手甲を切創した。被災者はブロックを切断しようとしたが、手がかじかんでグラインダーをしっかりと持てなかったため、一旦作業を中断するためにグラインダーの底にあるスイッチを切ろうとした。その際、グラインダーの刃により、左手甲を切創した。	50	153	8	50 ~ 99
2017	11	13~14	新幹線高架下付近において空地除草作業の警備中、現場の移動で歩いていたら、右足に草のつるが引っ掛かり、側の溝に転倒、右足大腿部を打ち負傷する。	63	719	2	1 ~ 9

2017	11	10～ 11	ジャンボにてロックボルト作業中左側のドリフター油圧ホースがパンクしたため、修理作業に取り掛かったが、右側のドリフターを動かすことが出来ず、切羽から下げられずに、ホースの交換作業を行っていた。作業員は破損ホース撤去作業後、退避している最中に、切羽左肩部より、50～60cm程度の岩塊が落下、作業員の右足に落下し被災した。	23	711	5	10 ～ 29
2017	11	9～ 10	客先工場7Fフロアにて機械移設の為床に開口を設けており、その開口の養生作業時に資材を持ち上げようとしたが足元が滑り、開口部の鉄骨に背中から転倒した。	51	417	2	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html